

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 笠間市稲田中学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	全学年生徒 102名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (文化祭) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	パラリンピアンへのスポーツに対する思いやパラリンピックに臨んでの心情などを直接聞くことにより、オリンピック・パラリンピックやスポーツへの興味・関心を高めるとともに、人としての生き方についても考える機会とする。また、障害者に対する理解を深めようとする態度を育てる。
5 取組内容	(1) パラリンピアンによる講演会 ① 全校生徒対象の講演会では、アテネパラリンピックの自転車競技スプリントでパイロット役として、銀メダルを獲得した笠間市出身の大木卓也選手を、講師として招聘した。スライドや動画を交えながら、「パラリンピックへの思い」や「夢をもつことの大切さ」について分かりやすく話をしていただいた。 ② パラリンピックの動画を通して、障害があっても様々な競技で目標を持って力強く生きている選手たちの姿を紹介していただいた。また、いつでも、誰でも、健常者から障害者になる可能性があることと、それでも目標を持って生きていくことの大切さや強さを大木選手の経験を踏まえながら話していただいた。

	③ 「夢を持つこと」「夢について話すこと」「夢を共感できる仲間を作ること」の大切さを、大木選手の人生を紹介しながら、お話しいただいた。子供たちにとって非常に分かりやすく、子供たちの心に残ったようである。 (2) パラリンピックのメダルの借用 今年度は、コロナウイルス感染症予防の観点から、体験活動が実施できなかったことから、大木選手の提案により、アテネパラリンピックで獲得した銀メダルを学校に貸し出していただいた。
6 主な成果	・パラリンピアンのお話を聞いたり、本物のパラリンピックのメダルに触れたりすることにより、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まった。 ・パラリンピックの躍動的な動画を見たり、大木選手がパラリンピックを通して経験したことや感じたことを聞いたりすることで、障害者に対する理解を深めることができた。 ・大木選手の人生を通して、「夢を持つこと」「夢について話すこと」「夢を共感できる仲間を作ること」の大切さについての話を聞いたことにより、人としての生き方を改めて考えることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	・地元笠間市出身の選手を招いたことで、生徒たちが親しみやすくなるようにした。 ・スライドや動画を交えながら、「パラリンピックへの思い」や「夢をもつことの大切さ」について分かりやすく話をしていただいた。 ・大木選手の提案により、アテネパラリンピックで獲得した銀メダルを学校に貸し出していただいた。
8 主な課題等	・単発な行事にならないよう今後の教育活動へのつながりを考えたい。 ・白杖を持つ人への声掛け体験など、障害者に対する理解を深める体験活動を、コロナ禍であっても工夫して取り入れることができればよかった。
9 来年度以降の実施予定	・来年度に行われる東京オリンピック・パラリンピックに向けて、生徒たちの興味・関心を高めたい。